

基本目標 4 仕事と暮らしを創造する環境づくり

茨城空港やJR羽鳥駅周辺など都市機能等の拠点となる施設を中心に、市全体の計画的な土地利用を推進します。また、広域的な道路ネットワークの充実を図るとともに、生活道路の整備、公共交通の充実を図ります。

恵まれた自然環境の維持、公園・緑地の整備、豊かな住環境の整備・景観形成により、本市の魅力さをさらに高め、移住・定住の促進につなげます。

産業面では、茨城空港を核として、住む人の暮らしを支える雇用の創出を目指し、にぎわい、活力の創造に資する施策を展開します。本市の基幹産業である農業の振興、既存の商業・工業の活性化、新しい企業の誘致、小美玉市の魅力を生かした観光の振興など、多様な分野との連携を図りながら積極的に取り組みます。

基本施策 1 計画的土地利用の推進

基本施策 2 道路体系・公共交通の充実

基本施策 3 公園・緑地・水辺の整備

基本施策 4 住環境・景観形成

基本施策 5 茨城空港の利活用

基本施策 6 農業の振興

基本施策 7 商業・工業の振興・企業誘致の推進

基本施策 8 観光の振興

■基本方針：基本施策ごとの取組の基本的方針を示します。

■主な成果指標：基本施策の成果として望まれる成果指標を示します。

■現状と課題：各基本施策の内容に関する現状と課題をとりまとめて示します。

■個別施策：基本施策を実現するための具体的な取組内容を示します。

◆重点施策：特に重点的に推進すべき施策です。本文中の個別施策に◆のマークで示します。

基本施策1 計画的土地利用の推進

■ 基本方針

「小美玉市都市計画マスタープラン」に基づき自然との調和のとれた適正な土地利用を推進するとともに、JR羽鳥駅周辺、茨城空港周辺、霞ヶ浦周辺において地域特性を生かした土地利用を推進します。

また、地籍調査や都市計画支援システムの充実・活用など土地情報の管理・充実を図ります。

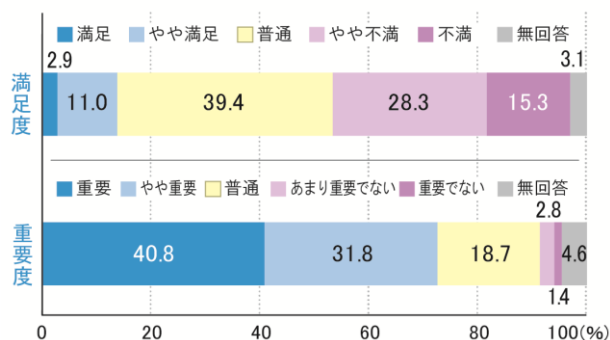
■ 主な成果指標

指標名	指標の考え方	実績値 2016年	将来値 2022年
住みやすい環境のための計画的市街地に対する市民の満足度	・計画的な土地利用の推進を図り、市民の満足度の向上を目指す。	13.9%	20.0%
玉里地区地籍再調査の実施	・事業計画 10.89 km ² について事業期間 10年での完了を目指す。	—	2.87 km ²

■ 現状と課題

- 農用地等の自然的土地利用については、市内の自然環境の維持や、農業の基盤の確保のため、適正な保全が必要です。市民アンケートにおいても、計画的市街地整備について約7割が重要と考えており、「小美玉市農業振興地域整備計画」の適正な運用を図るとともに、経済情勢などの変化を踏まえ、他の土地利用計画との整合性を図りながら、市の土地利用を総合的に検討していく必要があります。
- 用途地域が指定されているJR羽鳥駅周辺では、民間開発による住宅の集積が見られます。また、茨城空港周辺では、企業誘致が期待されています。既存の拠点や地域の特性を生かし、効果的な魅力づくりが必要と考えられます。
- 広域交通体系の整備に伴う開発により、農用地などからの無秩序な転換が生じることが考えられます。適正な土地情報をもとに、規制・誘導などの土地利用を図っていく必要があります。

住みやすい環境のための計画的市街地整備状況について



出典：平成28年「小美玉市第2次総合計画策定にかかる市民アンケート調査結果」

■ 個別施策

は重点施策

4101 適正な土地利用の推進

企画調整課・環境課・農政課・都市整備課

- ① 広域交通ネットワークに恵まれた優位性を生かし、住宅地や農地・工業地等をバランス良く配置し、本市の発展を目指します。
- ② 土地利用に関する計画の総合的な調整を図るとともに、無秩序な開発行為の未然防止と土地利用の適正な誘導に努めます。
- ③ 本市の基幹産業である農・畜産業の振興を図るため、「小美玉市農業振興地域整備計画」の見直しを行い、経済情勢に沿った農用地区域を設定し、優良農地を確保するとともに、本市の原風景となる農地・山林・霞ヶ浦湖畔等の自然環境の保全に努めます。

4102 地域特性を生かした土地利用の推進

都市整備課・特定プロジェクト整備課

- ① 土地利用構想に基づき、都市施設の適正な配置や、適正な土地利用の規制・誘導に努め、J R羽鳥駅周辺・茨城空港周辺・霞ヶ浦周辺など地域の特性を生かした土地利用を推進します。
- ② J R羽鳥駅周辺を本市の陸の玄関口として活性化させるため、駅の橋上化に伴う自由通路と駅前広場の一体的整備を契機とした機能の集約・高度化を図り、人が集まる魅力づくりに計画的に取り組めます。
- ③ 茨城空港と石岡小美玉スマート I C の連絡をはじめとした都市基盤整備を進め、土地利用構想において位置づけられているエリアを中心に民間活力の誘導に努めます。

4103 土地情報の管理・充実

農政課・都市整備課

- ① 地籍調査により土地に関する基礎データを築き、土地情報の管理・充実を図り、適切な土地利用の推進や効率化に努めます。
- ② 都市計画基本図の電子データの更新を図るとともに、都市計画支援システムの充実・活用により、土地情報の効率的な運用に努めます。



基本施策2 道路体系・公共交通の充実

■ 基本方針

広域及び市内地域の交流と連携を強化するため、国道6号バイパスや国道355号バイパス、（仮称）石岡小美玉スマートICアクセス道路など、広域幹線道路（国・県道）の整備を促進するとともに、市内道路ネットワークの充実を図ります。

また、生活道路の計画的な整備・維持補修、通学路の安全確保など、身近な道路環境の充実を図ります。

さらに、常磐線の運行本数増便の要望やJR羽鳥駅周辺整備を推進するとともに、交通弱者に配慮した交通対策、つくばエクスプレス延伸の要望など、公共交通の充実を図ります。

■ 主な成果指標

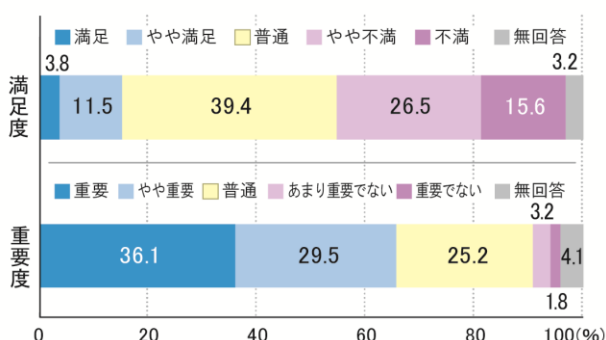
指標名	指標の考え方	実績値 2016年	将来値 2022年
道路改良率	・市内地域間の交流と連携を強化するため、道路実延長に対する改良率の向上を目指す。	36.2%	37.6%
市が運行する循環バス利用者数	・運行ルートや運行時刻の見直し等により利用者の利便性の向上を目指す。	20,244人	24,172人
JR羽鳥駅の乗車人員（1日平均）	・JR羽鳥駅前周辺の整備によりJR羽鳥駅の乗車人員の増加を目指す。	2,319人/日	2,610人/日

■ 現状と課題

- 本市の幹線道路網は、常磐自動車道、国道6号、国道355号をはじめ、主要地方道4路線、一般県道7路線が基軸となり、広域及び市内地域間の連携・交流を支えています。市民アンケートにおいても、幹線道路の整備は約7割が重要と考えており、市内外への移動・交流に欠かせないものとなっています。本市及び周辺では、茨城空港へのアクセス機能の強化のため、（仮称）石岡小美玉スマートICアクセス道路や東関東自動車道水戸線の整備等、骨格的な道路網の形成が進められています。
- それらの幹線道路のネットワークの充実を図るため、「小美玉市都市計画マスタープラン」に基づいた道路整備を実施し、計画的・効率的に整備を進める必要があります。
- 平成28年の道路改良率は36.2%、道路舗装率は54.1%となっており、特に日常生活に密着した生活道路について、各地区から多くの道路整備要望があります。また、市道に対する歩道設置率が低いことから、学校の通学路を含めた公共施設等の周辺の整備等、歩行者や自転車の安全確保に必要な整備を計画的に進める必要があります。

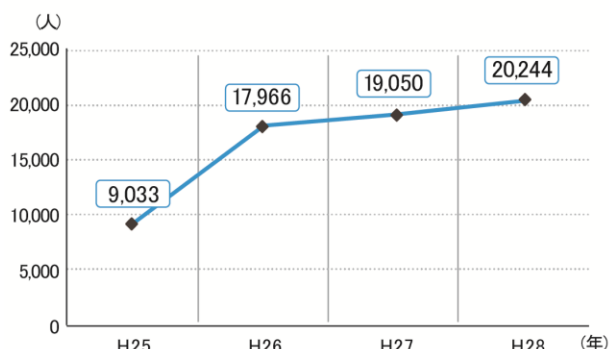
- 通勤通学の利用者が減少傾向にあり、バス運行本数の確保や路線の存続が課題となっていることを受け、平成 25 年 10 月より市循環バスの運行に取り組んでいるところです。市循環バスの利用者は増加が続いており、茨城空港との連絡強化、集落の分散、高齢化などを見据えて、利用しやすい路線バスの維持に努めるとともに、効果的かつ効率的な新たな交通体系を検討する必要があります。

市内外へ移動するための幹線道路網の整備状況について



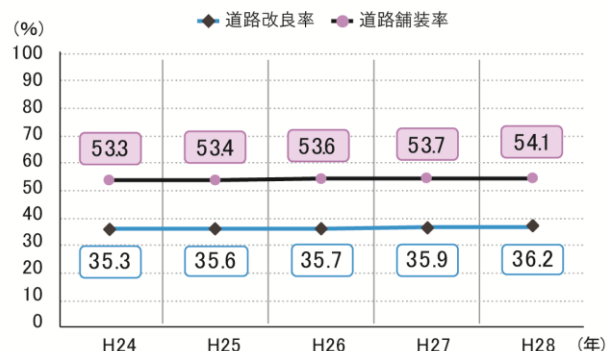
出典：平成28年「小美玉市第2次総合計画策定にかかる市民アンケート調査結果」

市が運行する循環バスの利用者数の推移



資料：企画調整課（※循環バスはH25年より運用開始）

道路改良率・舗装率



出典：道路現況台帳

個別施策

は重点施策

4201 国道・県道の整備促進

企画調整課・特定プロジェクト整備課

- ①本市の経済活動を支え、広域的な幹線道路である国道 6 号バイパス及び国道 355 号バイパス等の早期完成を目指すため、関係機関に要望します。
- ②茨城空港へのアクセス機能を強化し、周辺都市との連携や、広域的な主要幹線道路網を形成するため、国道・県道の整備要望活動を実施し、沿道の土地利用も含めた整備促進を図ります。
- ③（仮称）石岡小美玉スマート I C アクセス道路の早期完成に向けて、県と連携のもと整備促進を図ります。
- ④霞ヶ浦によって分断されている交通アクセスの改善を目指し、霞ヶ浦二橋の建設促進について、関係自治体と連携し、国や県へ要望していきます。

4202 市内道路ネットワークの充実

建設課・特定プロジェクト整備課

- ①市内幹線道路のネットワークの充実を図るため、国・県の計画や「小美玉市都市計画マスタープラン」などの計画に基づき、計画的な道路整備に努めます。整備にあたっては重点化、効率化によりコスト縮減を図ります。

4203 身近な道路環境の充実

建設課・管理課

- ①地域の生活環境の向上を図るため、各行政区からの要望等を踏まえ、生活道路の整備を継続的に進めます。
- ②通学時の児童生徒や高齢者の安全性や快適性の向上を図るため、歩道整備を推進します。
- ③地域住民と協力し道路の点検などを実施するとともに、各地区からの要望等を踏まえ、緊急性や重要性を検討し道路維持補修に努めます。
- ④「小美玉市橋梁長寿命化修繕計画」に基づき安全点検及び補修等を行い、橋梁の長寿命化を図ります。

4204 公共交通の充実

企画調整課・都市整備課・特定プロジェクト整備課

- ①市民や来訪者の鉄道の利便性向上を図るため、運行本数の増便やJR羽鳥駅への特急列車の停車など、関係機関へ要望していきます。
- ②鉄道利用者に配慮した施設機能の充実と公共交通の連絡強化のため、JR羽鳥駅の橋上化・自由通路・駅前広場を一体的に整備し、交通結節点の利便性の向上を図ります。
- ③交通弱者のための移動手段の確保や、通勤通学者の利便性向上など、安全で快適に移動できる持続可能な公共交通の確保に努めます。
- ④市循環バスについて、利便性の向上や利用環境の改善により利用促進を図り、継続的な運行に努めます。
- ⑤つくばエクスプレスの茨城空港直結を目指し、関係自治体との連携を深め、要望活動の促進に努めます。

基本施策3 公園・緑地・水辺の整備

■ 基本方針

市民の憩いの場として計画的な公園・緑地・水辺の保全と整備を推進するとともに、霞ヶ浦や水辺・平地林などの自然環境の保全を図ります。

市内にある既存の公園については、市民が集う賑わいのある公園となるよう活用を図るとともに、住民参加による公園の整備・管理を促進します。

■ 主な成果指標

指標名	指標の考え方	実績値 2016年	将来値 2022年
住民1人あたりの都市公園面積	・住民活動の場、集いの場、憩いの場としての公園面積の拡大を目指す。	7.1 m ² /人	7.3 m ² /人
茨城空港公園のイベント来場者数	・茨城空港公園でのイベント開催によるにぎわいづくりのため、参加者数の拡大を図る。	34,200人	40,000人

■ 現状と課題

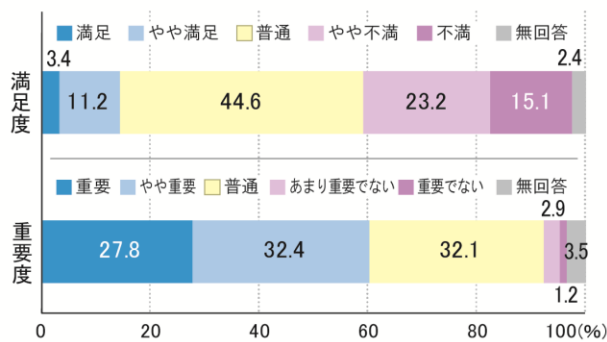
- 市内には都市公園や運動公園、緑地広場などが配置され、市民の憩いの場となっています。市街地での整備率が低いことから、市民アンケートでの満足度が約15%と低くなっています。今後も良好な自然資源の保全を考慮しながら、利用しやすい都市公園や緑地広場などの整備を検討する必要があります。
- 茨城空港公園の未整備の区域については、茨城県に対して早期の全園開園を要望しています。小美玉市茨城空港利用促進協議会等の関係機関と連携し、茨城空港公園航空広場において大規模なイベントを定期的で開催し、市のにぎわいの創出に大きな役割を果たしています。
- 市及び区管理の公園等の維持管理については、遊具などの施設・設備の老朽化が進んでおり、修繕・更新を進めていく必要があります。

公園・緑地整備状況

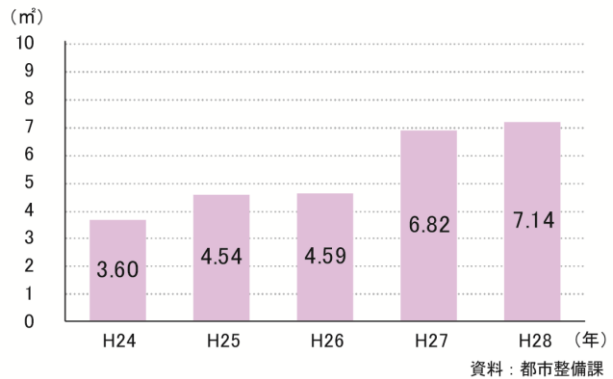
都市公園		運動公園		その他の公園		緑地広場	
名称	面積 (ha)	名称	面積 (ha)	名称	面積 (ha)	名称	面積 (ha)
東平児童公園	0.32	小川運動公園	6.10	羽木上森林公園	1.20	半溜池緑地広場	0.40
堅倉わんぱく公園	0.45	堅倉運動広場	1.90	横町公園	0.10	北山池緑地広場	0.10
仲丸池公園	2.02	納場運動広場	1.10	羽黒古墳公園	0.70	道海池緑地広場	0.50
先後公園	0.92	羽鳥運動広場	1.40	玉里ふれあい公園	0.60	陣屋池緑地広場	0.70
大井戸湖岸公園	2.15	美野里ふれあい運動広場	1.40			高場池緑地広場	0.20
宮田防災公園	3.02	中根球場	0.60			雁道窪池	0.50
希望ヶ丘公園	10.80	野田球場	1.50				
玉里運動公園	10.50	下吉影薬師台球場	1.20				
茨城空港公園	19.30						

資料：小美玉市（※希望ヶ丘公園の都市計画決定面積は3.8haで、表示は野球場、テニスコート、多目的広場名等の併設部分を含めた面積。）

市民の憩いの場としての公園・緑地の充実について



住民一人当たりの都市公園面積



個別施策

は重点施策

4301 計画的な公園・緑地の整備と自然環境の保全

企画調整課・都市整備課

- ①公園整備については、社会経済情勢の動向や市民の要望などを踏まえつつ、効率的・効果的な整備を検討します。
- ②霞ヶ浦湖岸や池沼は本市の原風景の一つであり、観光・交流拠点であるとともに市民の憩いの場でもあることから、自然景観と調和した景観形成を前提に、水辺空間の整備を検討します。
- ③地域住民に親しまれる公園・緑地の整備に努めるとともに、霞ヶ浦や河川流域の水辺や平地林などの自然環境の保全・整備に努めます。
- ④茨城県が行う「水郷筑波サイクリング環境整備事業」と連携を図り、大井戸湖岸公園などの施設の充実に努めます。

4302 拠点となる公園の整備・活用

空港対策課・都市整備課

- ①茨城空港公園については、県及び関係機関と連携し、住民の意見や利用者動向を踏まえつつ、整備促進に努めます。
- ②茨城空港公園については、全国各地からの航空旅客や市民が集い憩うにぎわいのある公園となるよう、市民や関係自治体などと連携のもと各種イベントを実施します。

4303 公園の適切な管理

都市整備課

- ①個々の公園に応じた適切な管理を進めるため、管理形態を明確にするなど住民参加による公園管理を促進します。
- ②市民が安心して利用できるよう、**基幹公園***施設の安全管理の徹底に努めます。



用語解説

基幹公園：地域住民が利用するための都市公園。総合公園、運動公園を都市基幹公園とし、街区公園、近隣公園、地区公園を住区基幹公園とする。

基本施策 4 住環境・景観形成

■ 基本方針

誰もが「住んでみたい、住んでよかった、これからも住み続けたい」と感じるような住環境の形成を目指し、暮らしやすい住宅地づくりを促進するとともに、市営住宅の適切な維持・管理及び更新を図ります。

また、市営霊園については、計画的な供給と施設の適正な管理を推進します。

景観形成については、優れた自然景観や古いまち並み景観の保全など、地域特性を生かした景観形成を図ります。

住宅地の環境を維持するため、空き家対策を積極的に推進します。

■ 主な成果指標

指標名	指標の考え方	実績値 2016年	将来値 2022年
家賃・住宅取得補助申請者数	・市内居住並びに転入した多子世帯への経済的負担軽減を図り、市内定住を促進する。	—	10件/年
特定空き家*の認定件数	・特定空き家の認定件数を進め、街の景観保持や安全・安心なまちづくりを推進する。	1件	10件

■ 現状と課題

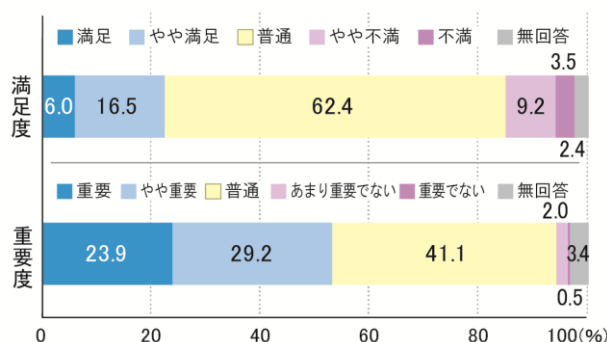
- 老朽化が著しく維持管理が難しい市営住宅については、「小美玉市公営住宅等長寿命化計画」に基づき、必要に応じて管理戸数の減少、老朽化の状態を踏まえた維持管理を進めています。
- 市営美野里霊園の拡張工事が完了し、新たな592区画について、年間50区画の販売計画により、将来10年以上の需要に対応できる体制となっています。少子化・高齢化により、墓地区画の返還が増えることから、再販売の対応が課題となっています。
- 本市では、例年60を超える行政区及び学校等公的機関が参加する花いっぱい運動などの環境美化活動等、市民の主体的な取組により自然と調和した景観づくりを推進しています。市民が積極的に取り組んでいる自然と調和した美しい住環境の形成・保全については、満足度が比較的高くなっています。市民が主体的に取り組むことにより、愛着を感じ、シビックプライドの醸成につながるまち並みの整備が必要です。

用語解説

特定空き家：倒壊などの危険性がある状態や、衛生上有害な状態、適切な管理が行われていないことにより景観を損なっている状態、周辺の生活環境に悪影響を及ぼしている状態であると認められる空き家。「空家対策特別措置法」（平成28年5月施行）により定められる。自治体からの助言・指導・勧告などの対象になる。

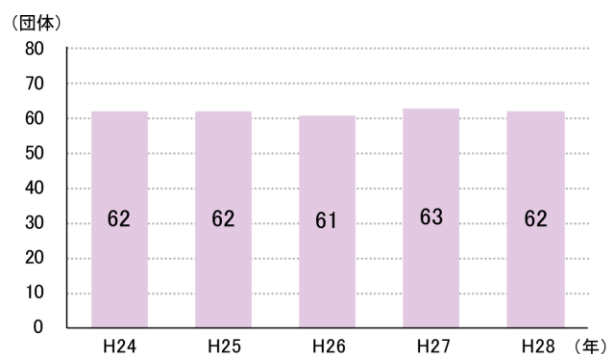
- 平成 25 年度住宅・土地統計調査によると、本市の住宅総数は 18,700 戸であり、世帯数の 9 割を超えている状況になっています。そのうち空き家は 2,250 戸、空き家率は 12.03% となっており、前回の調査時に比べて 60 戸増加し、空き家率も 0.26% 増加しています。また、「腐食・破損あり」の空き家は 420 戸となっており、これらが放置され老朽化が進むと、倒壊等の防災上の危険だけでなく、地域の活力の低下につながる恐れがあることから、空き家に関する施策を推進する必要があります。

自然と調和した美しい住環境の形成・保全について



出典：平成28年「小美玉市第2次総合計画策定にかかる市民アンケート調査結果」

花いっぱい運動の参加団体・学校数



資料：環境課

個別施策

は重点施策

4401 良好な住環境の形成

企画調整課・環境課・社会福祉課・介護福祉課・都市整備課

- ①市営住宅の適切な維持管理に努めるとともに、老朽化が進んでいる市営住宅については、計画的な改修や廃止を検討します。
- ②定住のための住宅情報や空き家情報など、総合的な情報の提供に努めます。
- ③住宅のリフォームやバリアフリー化を促進し、誰もが安心して暮らせる住環境の整備に努めます。

4402 市営霊園・墓地の適正な管理運営

環境課

- ①市民の墓地需要に対応するため、計画的な供給を図るとともに、施設の適正な管理に努めます。

4403 地域特性を生かした景観の創造

環境課・都市整備課

- ①都市景観の形成を目指し、「茨城県景観条例」を遵守し、適切な指導を行うとともに、「茨城県屋外広告物条例」に基づく規制・誘導を図ります。
- ②本市の優れた自然景観や古いまちなみの保全に努めるとともに、観光に配慮した景観整備に努めます。
- ③公共・公益施設のデザインや案内サインなどについては、周辺環境との調和を図るとともに、景観的誘導を図ります。
- ④花いっぱい運動やクリーン作戦など、市民の主体的な環境美化活動への取組を支援します。

4404 空き家対策の推進

企画調整課・環境課

- ①良好な住環境の維持・管理を図るため、市内の活用可能な空き家の有効利用を促進します。また、空き家の情報提供に努めるなど、有効活用を図り、地域の活性化を促進します。
- ②周辺の生活環境に深刻な影響を及ぼす恐れのある管理不全な空き家について、法令の規定及び「小美玉市空き家等対策計画」に基づき必要な措置を講じ、良好な住環境を維持します。



基本施策5 茨城空港の利活用

■ 基本方針

茨城空港を生かしたまちづくりを目指し、路線の拡充及び、空港の利用促進を図ります。また、交流人口の拡大や地域振興を目指し、茨城空港や本市の認知度の向上を図るとともに、空港ターミナルビルにおけるイベントの開催などを通して茨城空港の利活用を図ります。

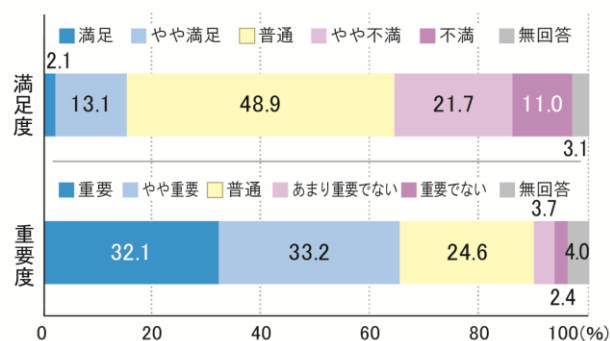
■ 主な成果指標

指標名	指標の考え方	実績値 2016年	将来値 2022年
茨城空港ターミナルビル来場者数	・茨城空港ターミナルビルの来場者数の向上に努めます。	1,386,700人	1,472,000人

■ 現状と課題

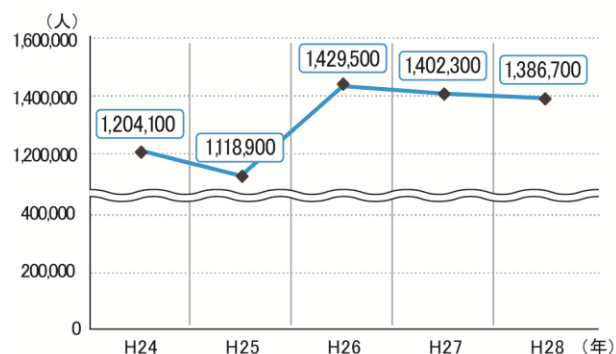
- 茨城空港の就航路線は、現在、国内4路線、海外1路線となっています。平成21年度の開港以来、旅客数は増加を続けていますが、茨城空港の利用者が本市に滞在することが少ないことが課題となっています。茨城空港を訪れる来場者数は、平成26年から減少傾向にあります。茨城空港を生かした産業の振興は重要度が高く、本市の魅力ある観光資源などの周知・PRを推進し、地元への経済波及効果をもたらすことが期待されています。

茨城空港を生かした産業の振興について



出典：平成28年「小美玉市第2次総合計画策定にかかる市民アンケート調査結果」

空港ターミナルビル来場者数の推移



資料：空港対策課（空港ビル管理事務所集計）

4501 空港の利用促進・有効活用

空港対策課

①県と連携を図り、茨城空港の周知や認知度の向上及び利用者の確保に努めます。

②小美玉市茨城空港利用促進協議会の活動を支援し、地元としての空港の利用促進に関わる新たな方策の提言や機運醸成に努めます。

③茨城空港ターミナルビルにおいて、定期的なイベント等を実施しながら本市の特産品を周知するとともに、にぎわいづくりを推進し、地域固有の地場産業・観光資源・歴史・風土などの地域資源の有効活用を図ります。

④県との連携のもと、茨城空港発着路線の拡充や増便を促進します。



基本施策6 農業の振興

■ 基本方針

将来にわたって食料の安定供給の確保を図るため、新規就農者の支援や農業経営のフォローアップなど担い手の確保に努めるとともに、生産性向上のための農業生産基盤の整備を図ります。

また、小美玉ブランドの農産物の開発、食育活動の充実、地産地消の推進など安全・安心な農畜産業の振興を図ります。

さらに、水産業については、霞ヶ浦の豊かな水産資源を守るための取組を推進し、水産業の振興を図ります。

森林の多面的機能の保持や農地農業用施設の保全管理、耕作放棄地の解消など、農村環境の保全を図ります。

■ 主な成果指標

指標名	指標の考え方	実績値 2016年	将来値 2022年
認定農業者数	・地域農業の担い手確保のため認定農業者数の増加を目指す。	298人	330人
農業産出額	・農業の振興を図り、農業産出額のさらなる向上を目指す。	354億円	現状維持

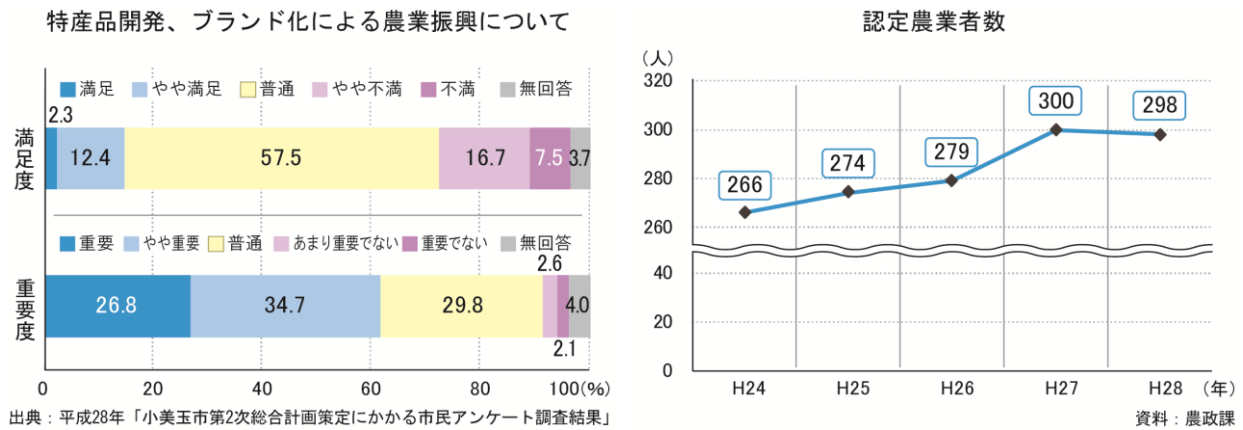
■ 現状と課題

- 農業の担い手の高齢化が進み、次世代の農業を担う若年層の人材確保は深刻な課題となっています。特産品開発、ブランド化による農業振興は、市民アンケートにおいても重要度が高く、農業の振興が期待されていることがうかがえます。また、認定農業者は増加傾向にあることから、農業を継続していくことができるよう、経営規模の拡大や経営の多角化、栽培技術の高度化などにより、時代に即した収益性の高い安定した農業経営を支援していくことが必要です。
- 農業水利施設などの老朽化による機能の低下が課題となっています。地域の連携を図り、効率的な生産基盤の整備、集落環境の整備の支援が求められています。
- 安全・安心な農畜産物の提供は、消費者にとって不可欠なものとなっており、**農業生産工程管理（GAP）***による食品の安全性の確保が求められています。家畜防疫も含め、農産物の質の向上を支援し、首都圏近郊という立地を生かした競争力のある農業の振興を図ることが必要です。

用語解説

農業生産工程管理（GAP）：農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組。

- 昭和 45 年代から発生している霞ヶ浦の富栄養化や、外来魚による水資源の減少は、水産業にとって深刻な課題となっています。近年、外来魚の駆除と稚魚の放流、水質浄化機能を持つ水生植物帯の維持管理による水質浄化への取組が続けられています。



個別施策

は重点施策

4601 担い手の確保と育成

農政課

- ① 就農して間もない新規就農者の農業経営を支援し、持続可能な農業経営の確立に努めます。
- ② 本市の農業を支える認定農業者を確保するとともに、JA、普及センターなど関係機関と連携し、経営改善などの営農指導の強化を図り、経営感覚に優れた農家の育成に努めます。
- ③ 担い手の経営規模の拡大及び経営の効率化を図るため、農地の集積・集約化の取組を推進します。

4602 農業生産基盤の整備

農政課

- ① 高品質な農産物を安定的に供給できる産地づくりのため、地域の実情に沿った排水改良・区画整理など生産性向上を図るための計画的な基盤整備を推進します。
- ② 水田農業の持続的な発展のため、主食用米に偏らない多様な米生産を推進し、水田のフル活用を図ります。
- ③ 乳牛の資質の改良のため、優秀な基礎牛の導入を推進します。

4603 安全安心な農畜産物の振興

農政課・学校給食課

- ①全国でも有数の生産量を誇る本市の農畜産業を生かし、生乳・鶏卵・食肉等の畜産物や、レンコン・ニラ等の農産物の**6次産業化***の推進、さらにはブランド力強化に向けた取組を支援するなど「小美玉ブランド」の知名度の向上を図ります。
- ②安全安心で高品質な農畜産物の安定供給を図るため、家畜防疫の徹底を図るとともに、環境に配慮した農業生産基盤の確立を目指します。
- ③学校給食などへの供給により、子どもたちが食と農を理解できるよう食育活動を推進します。
- ④地元農畜産物の消費拡大を図るため、多様な主体と連携した地産地消運動の推進を図ります。
- ⑤収穫体験・農作業体験が可能な作物と受け入れ農家を確保し、魅力ある農業体験ができるシステムを構築し、都市と農村の交流を図ります。
- ⑥農業生産活動におけるリスクを排除し、産地として農産物の質の向上を図るため、農業生産工程管理（GAP）導入を推進します。

4604 霞ヶ浦内水面水産業の振興

農政課

- ①霞ヶ浦の豊かな水産資源を守るため、水質浄化機能を持つヨシ帯等の水生植物帯の維持・回復に努め、水産業の振興を図ります。
- ②ワカサギの人工ふ化等を実施し、水産資源の保護に努めます。

4605 農村環境の保全

農政課・農業委員会事務局

- ①森林が持つ地球温暖化防止、生物多様性の保全、水源かん養など多面的機能が発揮されるよう、**森林クラウドシステム***の整備を図るとともに、平地林の整備・保全を支援し、快適で豊かな森林の創出を図ります。
- ②農地・農業用施設・農村環境を維持保全する地域の共同活動を支援し、地域資源の適切な保全管理を推進します。
- ③農作物の生産に深刻な被害をもたらす野生鳥獣の被害防止対策を行い、被害の拡大防止を図ります。
- ④市、農業委員会、農業団体等が連携し、遊休農地の発生防止・解消を図り、農地を適正に利用するよう支援します。

用語解説

6次産業化：農業分野の雇用と所得を確保するため、生産と加工・販売の一体化や、地域資源を活用した新たな産業の創出などを促進する体制。

森林クラウドシステム：国土交通省国土政策局がインターネット上に提供している森林地域情報。様々な主体が管理する情報（公開可能なもの）を閲覧可能にすることで、データに基づいた持続可能な森林活用を目指すシステム。

基本施策7 商業・工業の振興・企業誘致の推進

■ 基本方針

市民が日常生活のなかで、不自由なく買い物ができるような商業環境の整備を推進するとともに、担い手の育成、起業の支援など商業活動の活性化を図ります。

また、地域全体の活性化を目指し、市内企業の支援充実を図るとともに、企業間の交流を推進します。

市内全域はもとより、茨城空港テクノパークや茨城空港周辺地域への産業集積に向けて、積極的な企業誘致を推進します。

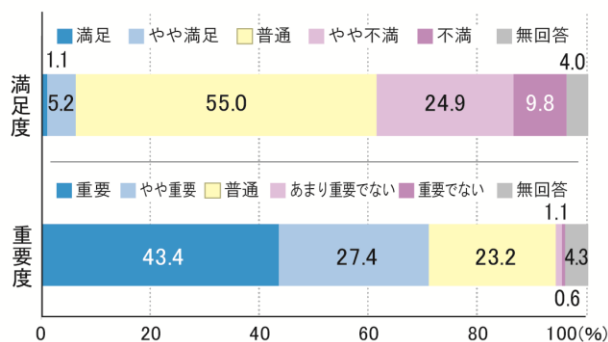
■ 主な成果指標

指標名	指標の考え方	実績値 2016年	将来値 2022年
新規起業数（延べ人数）	・新規起業を支援するとともに、起業後のフォローアップを実施し、チャレンジしやすい環境を目指します。	—	15人
企業説明会参加者数	・求人企業と求職者のマッチング機会の提供により、雇用創出を図る。	39人	50人
新規企業の立地件数及び拡張企業数	・市内における新規企業の立地件数及び拡張企業の件数の増加を目指す。	23件	47件

■ 現状と課題

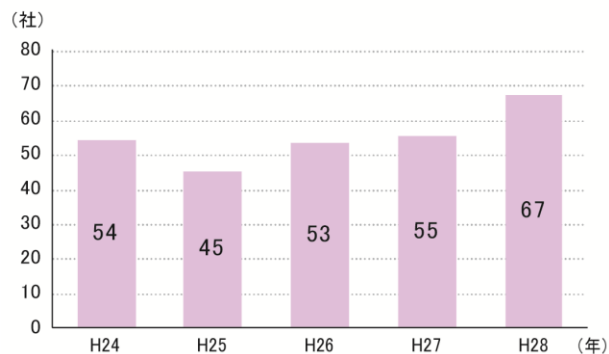
- JR羽鳥駅周辺や小川市街地などに個人商店が点在し、商店街を形成していましたが、経営者の高齢化や後継者不足により、商店数の減少、消費者の市外流出が加速しています。市民アンケートにおいても、雇用の安定・拡大についての満足度が低く、地元商業の活性化に向けた地域の商工会などへの支援、各商業経営者を対象とした経営安定化への支援が求められていると考えられます。
- 日本の経済は回復基調にあるものの、グローバル化の加速や人手不足への対応など、市内企業のおかれている状況は、依然厳しい状況が続いています。石岡・小美玉合同就職説明会参加企業数は、近年増加傾向にあり、企業活動の活発化の兆しがうかがえます。今後も社会情勢の変化、経済活動の動向を把握し、企業の成長を促す支援が求められています。さらに、異業種間交流の促進など、本市の総合的な活力向上に向けた取組が必要です。
- 茨城空港テクノパークについては、県と連携し企業の誘致活動を行っています。さらに企業誘致を推進するため、緑地率等の緩和を定めた市準則を制定しています。（仮称）石岡小美玉スマートICアクセス道路の整備などの利便性を生かした誘致活動を継続して展開しますが、土地利用の規制・誘導は、法令に基づき総合的な調整が必要です。

雇用の安定・拡大について



出典：平成28年「小美玉市第2次総合計画策定にかかる市民アンケート調査結果」

石岡・小美玉合同就職説明会参加企業数の推移



資料：商工観光課

個別施策

は重点施策

4701 商業環境の整備と商業活動の活性化

商工観光課

- ① 中小企業の安定的経営や担い手育成、起業など、新たな商業の展開を支援し、地元商業の維持・活性化を図ります。
- ② 商工会及び商工団体を核とした商業活動を展開することにより、連携体制の構築を図ります。
- ③ 商業経営の強化と経営の安定化を図るため、「中小企業信用保険法」による保証制度や事業資金（自治金融）の融資斡旋を促進します。

4702 市内企業への支援と交流の推進

商工観光課

- ① 固定資産税の特別措置の継続に合わせて、企業ニーズに即した新たな優遇制度の検討を推進するとともに、融資制度の活用促進を図ります。
- ② 企業連絡組織を強化し、企業間及び市との連携を図るとともに、企業情報や課題意識を共有化します。また、新たな就業の機会を増やすため、ハローワークや石岡地区雇用対策協議会などの関係機関と連携し、就業情報の提供や就職説明会を開催します。
- ③ 「小美玉市フレッシューズ応援事業」として、主に各企業及び農業後継者等の若者を対象に、商工団体及び農漁業団体間の異業種間交流の場を提供し、情報交換や新たな人脈形成に生かします。
- ④ 女性が子育てと仕事を両立しながら、いきいきと輝く社会の実現を目指して、女性に優しい企業になるよう職場の環境整備を市内企業に働きかけます。

- ①茨城空港と石岡小美玉スマート I C を結ぶ道路の周辺地域について、土地利用に関する諸計画の総合的な調整を図りつつ、企業ニーズに即した優遇措置の拡大を行い、積極的に企業誘致を推進します。
- ②茨城空港テクノパークについては、土地利用計画・周辺住民・周辺環境に配慮しつつ、県等の関係機関と連携しながら、企業側が求める優遇措置の具体化等により、積極的な企業誘致を推進します。



基本施策8 観光の振興

■ 基本方針

観光による地方創生・地域活性化を推進するため、観光を軸として多様な分野との連携を図るとともにシビックプライドの醸成を図るなど「観光地域づくり」を積極的に推進します。

また、地域が一体となった観光施策を推進するとともに、体験型観光や**アグリツーリズム***の展開、空のえき「そ・ら・ら」を活用した魅力発信など観光資源の活用を図ります。

さらに、国内外に向けて観光情報を効果的に発信し、観光誘客を推進します。

■ 主な成果指標

指標名	指標の考え方	実績値 2016年	将来値 2022年
観光入込客数	・観光地点等の観光入込客数を増加することで、本市への交流人口を増やす。	1,864,000人	1,978,400人
観光資源や特産物等の情報発信	・観光誘客に発信力のある観光関連のホームページ（SNS含む）のアクセス数を増加させる。	—	27,000回
外国人留学生の海外向け情報発信回数	・留学生などのボランティアに依頼し、母国語での情報提供を行い、来訪者の増加を図る。	—	32件

■ 現状と課題

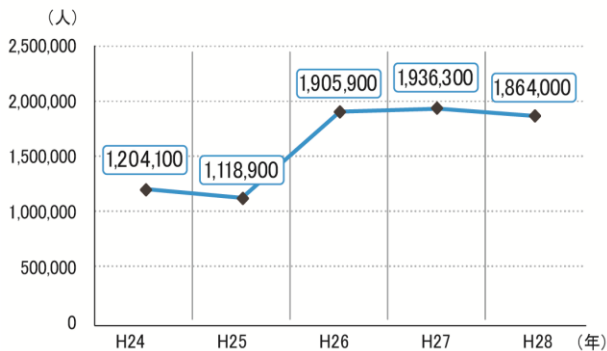
- 国は平成24年度に「観光立国推進基本計画」を策定し、観光を重要な産業の一つとして位置づけています。本市においても交流人口の拡大による地域・経済の活性化の推進のため、観光業者や自治体だけでなく、市民や地域産業全体が主体となり、豊かな観光地域の形成に努めているところですが、観光地点等来場者数は、平成26年以降減少傾向にあります。今後も、より多様な分野が連携・協力し、人が訪れたいと思う観光地域形成への取組が必要です。
- 本市の豊かな自然環境や、農村・集落の景観、伝統的な文化など、観光資源として意識されるようになった地域資源が十分に生かされていない状況です。市民アンケートにおいても、歴史資源を活用した観光施設の整備については、満足度・重要度ともに低くなっています。地域が一体となり、国内・海外からの旅行者のニーズに合った観光産業の展開を図っていく必要があります。

用語解説

アグリツーリズム：余暇を農業地域などの緑豊かな場所で過ごし、農作業などを体験し、楽しみながら農業について理解を深めることを目的とした活動。

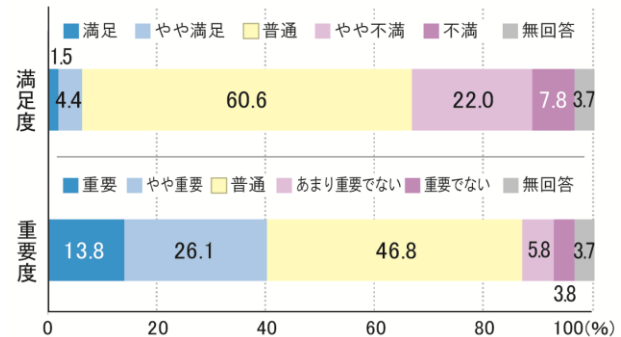
- 茨城空港を有する本市は、中国や台湾等を中心にF I T（外国人個人旅行者）*の注目を集めています。インターネットを活用した地域資源の紹介や、外国語表記での情報発信など、海外からの旅行者が情報を得やすい環境を整えていく必要があります。また、地域再生拠点施設として整備した空のえき「そ・ら・ら」が4年目を迎えるなかで、さらなる集客のための課題を整理して、交流人口を増やしていく必要があります。

観光地点等来場者数の推移



資料：商工観光課（※内訳：空のえき「そ・ら・ら」来場者数+茨城空港来場者数公表値）

歴史的資源を活用した観光施設の整備



出典：平成28年「小美玉市第2次総合計画策定にかかる市民アンケート調査結果」

個別施策

は重点施策

4801 観光地域づくりの推進

商工観光課

- ①文化・農林漁業・商工業・環境・スポーツなど地域の関連事業者や住民等の多様な関係者を幅広く誘引し、観光地域づくりに努めます。
- ②市民がまちに愛着を感じ、誇れるまちとなるよう、様々な場と機会を活用しシビックプライドを育てる取組を進め、まちの未来を創っていく人材を育成します。

4802 観光資源の活用

商工観光課

- ①地域の様々な観光資源の魅力を生かしていくため、各専門家のノウハウの共有を図り、地域が一体となって魅力的な観光資源の活用方法の充実に努めます。
- ②農業関係者及び農業各機関等と連携し、地域の観光資源や特色を生かした体験型観光及びアグリツーリズムの受け入れ体制を整備し、市のホームページやSNS等による情報発信に努めます。
- ③空のえき「そ・ら・ら」を拠点とし、小美玉ブランドの農畜産物・文化・伝統といった小美玉の魅力を発信します。また、今後の施設のあり方についても検討を進めます。

用語解説

F I T (外国人個人旅行者)：個人旅行向けパッケージを利用したり、自ら航空券や宿泊の手配を行ったりする外国人旅行者。

4803 観光情報発信の充実

商工観光課

- ①空の玄関口である茨城空港を核とし、周辺自治体とも広域連携を図りながら、県内観光地の情報を積極的にPRし、交流人口の増加に努めます。
- ②インバウンド観光の推進については、外国人旅行者のニーズを把握しながら、魅力的な観光資源を使った広域ルート観光や体験型観光の充実を図り積極的な観光プロモーションに取り組めます。



